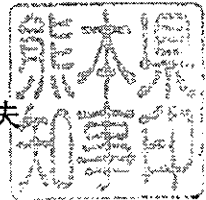


道整第 258 号
平成20年10月20日

国土交通省 道路局長 様

熊本県知事 蒲島 郁夫



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

貴職におかれましては、日頃から本県の道路行政の推進につきまして御高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。

さて、平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記について、
別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

熊 本 県

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

○地方の道路整備財源の充実

地方の厳しい財政状況を勘案し、今後の道路整備や維持管理に支障が生じないよう地方の道路整備の財源の充実を図るため、補助事業、地方道路整備臨時交付金事業の国費率の嵩上げや、補助事業の採択範囲の拡大などをお願いしたい。

○国の直轄事業負担金の廃止

直轄事業負担金は地方の厳しい財政状況のなかで大きな負担となっているため、直轄事業負担金については原則廃止して頂きたい。特に、維持管理に係る直轄事業負担金については早急に廃止するようお願いしたい。
その際には、直轄国道の整備が遅れないよう配慮して頂きたい。

○道路の維持管理のあり方

日本全体において、高度成長期に集中的に建設された道路ストックの老朽化に伴い、道路の維持管理費の確保は、厳しい財政状況の中、今後の道路行政における大きな課題となる。道路施設を適切に管理し持続的に使用可能にしていくため、少なくとも維持管理に係る財源を恒久的、安定的に確保するシステムを創設されたい。

②- 1 地域の現状と抱える課題

○現状

①社会・経済的特性

〔経済活動の拡大とグローバル化〕

- ・半導体関連産業の集積地となっており、近年は自動車関連企業等の進出も著しく、海外との取引拡大等が期待されている。
- ・熊本県には阿蘇の自然・景観や、歴史遺産など豊かな観光資源があり、県内の観光客は年間約 6 2 0 0 万人となっている。特に近年は東アジアからの外国人旅行者が増加傾向にある。

②交通特性

〔交通渋滞〕

- ・熊本都市圏や観光地へのアクセス道路などで多くの交通渋滞（渋滞ポイント 3 7 箇所）が発生しており、熊本市の渋滞損失時間は九州では福岡市に次いで 2 番目である。

③道路特性

〔主要幹線道路ネットワークの整備状況〕

- ・高規格幹線道路などの主要な幹線道路ネットワークについては、縦軸となる九州縦貫自動車道が完成しているものの、九州横断自動車道等の横軸は整備途上である。

〔災害危険箇所〕

- ・異常気象時における事前通行規制区間が 5 8 区間、3 4 5 km（県管理道路の約 9 %）ある。
- ・道路斜面において、落石対策などが必要とされた 2 0 4 7 箇所のうち未対策が 1 5 4 8 箇所（約 7 6 %）ある。

○課題

①九州における熊本の拠点性の確立

九州の中心に位置するという優位性を最大限に活かし、九州における拠点性を高めるとともに、地域間の交流を活性化し、九州新幹線の全線開業効果を県内全域に波及させるための「九州のへそ・熊本」づくりを推進する必要がある。

②競争力あるたくましい産業の創出

熊本県には、古来より受け継がれてきた歴史、文化をはじめ、阿蘇や天草など世界に誇れる自然や景観、大地の恵みであり宝である農林水産物、さらには高い技術に裏付けられた工業製品など多彩で豊かな地域資源や産業がある。

この熊本の豊かさや魅力を最大限に引き出し、農林水産業をはじめあらゆる産業を活性化し、「稼げる県」にすることが課題である。

③県民の安全・安心な暮らしの確保

熊本県は、地質的に脆弱で急峻な山地が多いことや台風の常襲地帯であるなど自然災害が発生しやすい条件下にあるため、災害時の避難路や緊急輸送道路の確保など災害に対する安全が確保され、安心できる住みやすい社会にすることが必要である。

②-2 地域の目指すべき将来像

◎目指すべき将来像の全体像（「生まれてよかった、住んでよかった、これからもずっと住みたい熊本」）

熊本県では、現在、平成20年度から23年度までの県政の運営指針となる「くまもとの夢4ヵ年戦略」を策定中である。この中で、県民が誇りを持てる郷土で、生まれ育ち、夢を持ち、働き、そして老いても安心して暮らせるような「生まれてよかった、住んでよかった、これからもずっと住みたい熊本」を目指すべき将来像の全体像としている。

さらに全体像は、稼げる県としての経済上昇を目指す「経済」、老いても安心できる社会を目指す「暮らし」、誇りに満ちた魅力あふれる地域を目指す「誇り」、それらを担う人づくりを目指す「人」の4つの分野別将来像から構成される。

このうち、将来像の実現を目指すうえで、道路が主体的または支援的に取り組むこととなる将来像は「誇り」、「経済」、「暮らし」の3つの分野である。

○将来像1：品格あるくまもと（誇り）

熊本県の優れた歴史や文化などが再認識され、誇りに満ちた魅力あふれる地域社会

また、県民一人ひとりが環境への配慮を当たり前のこととして行う低炭素、循環及び共生を基調とした持続可能な社会。

さらに、九州新幹線全線開業効果の最大化に向け、九州の中心として熊本都市圏の拠点性の向上及び県土の基盤の充実。

→ 道路の主な取組：

- ・熊本の拠点性を高めるとともに、新幹線全線開業効果を県下全域に波及させるための横軸等の幹線道路網の整備
- ・九州における熊本都市圏の拠点性向上に向けた交通円滑化のための道路の整備
- ・新幹線新駅等の交通結節点へのアクセス道路の整備

○将来像2：経済上昇くまもと（経済）

多様な担い手により、熊本の高品質で安全・安心な農林水産物を継続して生産できる魅力的で世界に飛躍する農林水産業。

また、企業誘致や産学官連携等による新事業の創出などにより地域経済の活性化が進み、雇用を創出する商工業。

さらに、雄大な自然や豊かな歴史遺産など、多彩で魅力的な観光資源と物産を最大限活用した記憶に残る観光地。

→ 道路の主な取組：

- ・企業誘致に向けた環境づくりとしての工業団地周辺における道路の整備
- ・渋滞緩和等に向けた観光地へのアクセス道路の整備

○将来像3：長寿安心くまもと（暮らし）

年齢や性別、障がいの有無などにかかわらず一人ひとりが人権を尊重され、健やかに生き甲斐を持って力を発揮できる社会。

また、保健、医療、福祉の連携強化により総合的なサービスが受けられる住み慣れた地域で安心して暮らすことができる社会。

さらに、健康危機や食、消費生活、犯罪、事故、災害などに対する安全が確保され、安心できる住みやすい社会。

→ 道路の主な取組：

- ・災害時の避難、救助・救援活動を確保するための道路の整備

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

熊 本 県

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・ 地域活力の向上 ・ 都市交通の快適性、利便性の向上 ・ 大規模な地震・災害に強い県土づくり	○横軸や縦軸となる高規格幹線道路や地域高規格道路等の主要幹線道路の整備 ・ 横軸：九州横断自動車道延岡線 ： 中九州横断道路 ： 熊本天草幹線道路 ・ 縦軸：南九州西回り自動車道 ○地域の産業を支える幹線道路の整備 ・ 企業集積地や工業団地へのアクセス道路 ・ 観光地や観光施設へのアクセス道路 ・ 九州新幹線新駅へのアクセス道路 ○熊本都市圏の交通円滑化のための熊本環状道路等の整備 ・ 熊本西環状道路 ・ 国道3号熊本北バイパス ・ 国道3号植木バイパス ・ 熊本駅周辺等の街路 ○災害時の避難、支援活動を支える緊急輸送道路等の整備 〔 緊急輸送道路等における橋梁の耐震化や道路斜面等の防災対策 〕	・ 熊本の九州における拠点性の確立 ・ 九州各地域との交流の活性化や連携の強化 ・ 観光客の増加や観光地への利便性、快適性の向上 ・ 交通渋滞の緩和 ・ 定住圏の拡大 ・ 農林水産物等の輸送の効率化 ・ 救急医療体制の強化 ・ 企業誘致条件の充実、物流の効率化 ・ 企業誘致条件の充実、物流の効率化 ・ 観光客の増加や観光地等への利便性、快適性の向上 ・ 九州新幹線利用における利便性の向上 ・ 熊本都市圏の交通渋滞緩和（渋滞損失時間の低減） ・ 交通事故の減少 ・ 都市環境（騒音、大気）の改善 ・ 円滑な救助、救援活動の確保 ・ 避難路の確保等による災害時の人的被害の軽減	